

DE TUNER'S EXPRESS

ドイツ・チューナーの“今”がわかる!

アウディ & VW のニューモデルが次々デビュー中のドイツ。新車の元気が良いから、当然チューナーの勢も増す!! ここでは、そんなドイツ・チューナーの“今”をお伝えしよう。年初に国内販売が開始された A1 に、今までとはちょっと趣向の違うチューニングを施した ABT、R8 を FR 化し、強烈なツインターボをポルトオンした mtm、さらに新選気缸のメルセデス・チューナー VÄTH を直撃!!



あらたなユーザー層開拓に期待が膨らむ ABT A1 チューニング!



1. ホワイトのボディにラベンダーカラーで花柄があしらわれた「アロハ」。日本のカスタムシーンでいう、いわゆる「ゲル車」に近いのだが、黒いムードを帯びずチューニングカーというよりもドイツでは新鮮に映る。2. リアスポイラーやリアディフューザーなど、ABT 製モディファイパーツ部分がラベンダーカラーに塗られている。3. ホイールは 18 インチを標準。4. パンパー下部の中央部分に付加されるリップスポイラー。これだけで大分印象が変わってくる。5. 塗装効果も考えられたリアスポイラー。カーレースではマシンの印象を高めることもできるデザインだ。6. フォンダーに付加されたダクトもサイドビューにおけるアクセント。リアホイールリムとカラーコーディネートすることによりポップな印象を強めている。



(ABT)

CALL>>>LAGER CORPORATION (ラガーコーポレーション)
0483853-2222 www.lager.co.jp
PHOTO>>>Hidenaka Ishiura/studio Zero (石渡亮彦/スタジオ・ゼロ)

DTM で数々の勝利を手に入れているアウディのワークスチームが「Audi Sport Team Abt Sportsline」。この事実一つとっても、ABT が、エアロパーツやホイールをデザインするだけのチューナーとは、まったく次元の異なる存在であることがわかる。

ABT は、市販車のチューニングを手がけるチューナーであるが、アウディのモータースポーツ活動を支える「レース屋」でもあるのだ。世界のトップカテゴリーで培われたレーシングテクノロジーを市販モデルにフィードバックし、アウディ & VW 各車のチューニングを手がける。だからこそ、本国ドイツをはじめ、世界中のアウディ & VW ファンから絶対的な信頼を集めているのだ。

さて、そんな ABT の最新作が A1。日本ではつい先日、正式に発売が開始されたばかりだが、本国ドイツではすでにチューニングシーンも盛り上がりを見せている。ところで今回紹介する A1 は、これまでの ABT からすると少し雰囲気の違いが感じられる。実は、ホワイトのボディにチャームなラベンダーカラーの花柄をあしらったこの A1 は、「アロハ」と名付けられたコンセプトモデルで、そのほかにも赤を基調にしたシャープなモディファイを加えた、「クレックス」、ブラック×ライムグリーンでワイルドに仕上げた「ハイボルテージ」が製作された。

A1 が、いわゆるカーガイ (クルママニア) だけにウケるクルマではないと判断し、よりユーザーフレンドリーなイメージを出すため、テーマ性を持たせたデモカーを製作したようだ。しかし、そこはワークスチューナーの ABT。空力特性に優れたエアロパーツと、運動性高 & ルックスの向上に効果を発揮してくれるサスペンション、さらには信頼性を失わずエクストラパワーを獲得するエンジンチューニングなど、ポイントはしっかりと押さえている。

ワークスチューナーだからこそカジュアルラインでも完成度の高さはピカイチなのだ。



広大なスペースを備える ABT 本社には、ショールームと共に社の歴史がわかるミュージアムが併設されている。ここを見ると、ABT の最新チューニングプログラムの全ぼうがわかると同時に、懐かしい結果を残して来たレース活動の記録についても知ることが出来る。一般の来場者が入場することはもちろん、プレス関係者でも撮影を厳しく制限される区域もある。取材仕が足を運んだときには、レーシングファクトリーのスペースで DTM マシンのセーティングが行われていた。